

令和4年（2022年）3月30日

第6回都市マネジメント懇談会 会 議 要 旨

事 務 局

都市整備局都市計画課

第6回都市マネジメント懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和4年（2022年）3月30日 15時00分

2 開催場所

広島市役所 14階第7会議室

3 出席委員

渡邊委員（座長）、田中委員、神田委員、フंक・カロリン委員、
木原委員

4 傍聴人

2名

5 閉会

16時20分

【議事内容】

都市マネジメント懇談会とりまとめ報告書について

【会議結果】

異議なし

【とりまとめ報告書の説明（渡邊座長）】

第1回～第5回及び若者意見交換会で議論された内容や意見を基に、『都市マネジメント懇談会とりまとめ報告書』を作成した。

この報告書は、広島市が目指す都市像である「国際平和文化都市」に向け、5つの視点より、時代変化に呼応しつつ、新たな価値創造に取り組むため、「広島ブランドを世界に発信」と「自然環境と共生し安全で快適に過ごせる都市」を都市像の構成する柱とし、「出かけたくなる交通サービスの充実」と「ICT技術を活用した環境創造都市」を都市像の実現をサポートするものとし、「市民が自ら創るまち」を、都市像を実現するための原動力であると整理をしている。

そして、未来の広島、「国際平和文化都市」を実現するためのアプローチとして、「1 官民連携による取組の推進」、「2 全てのステイクホルダーでのビジョン共有」、「3 市民や民間企業が主体となった、持続的なエリアマネジメント・まち育ての推進」、「4 都市の成長を支えるインフラの整備」、「5 広島広域都市圏における投資の呼び込み・経済の循環」の5つのアプローチにより、行政、市民、企業が総力をあげて、取り組む必要があるとまとめている。

【都市マネジメント懇談会を振り返って】

（田中委員）

- ・ 委員の先生方とは学会などでお会いするが、皆さんがどのような考えをお持ちなのか、あまり知らなかった。この懇談会を通し、皆さんが持っているのまちへの問題意識を知ることができ、とても勉強になった。
- ・ 都心、拠点、郊外など空間をターゲットに話をしてきた中で、それぞれの大枠は似ており、これらがマトリクスのようになるのかなと感じた。
- ・ 自然環境の話で気候変動に適応していく必要があると、お話をさせていただいたが、災害・防災対策についてももう少し触れておけば良かった。
- ・ 若者など色々な分野の方にお話を聞くことができ、改めていろいろな立場・分野の方が、ビジョンを共有していくことが大切であると感じた。
- ・ これまでのまちづくりの経緯や歴史を理解することで、次にどのようなことをすれば良いか考えることができると思う。

(フंक委員)

- ・ いろいろな方の考えを聞くことができて良かったが、自分の専門である観光のことについて、もう少し触れれば良かった。
- ・ この懇談会を通して、観光客にとって魅力的なまちは、住民にとっても魅力的なまちであり、住民にとって過ごしやすいまちは、観光客の滞在時間も伸びるということを改めて実感した。
- ・ 広島市は川と付き合っていかなければならないまちとして、気候変動にどう向き合っていくか。また、コロナやエネルギー問題もあり、これらは全てつながっていると思う。
- ・ 広島は日本の縮図であり、宮島や宇品などマイクロツーリズムの可能性があると思う。

(神田委員)

- ・ この懇談会を開催するにあたり、夢を語ることができるなんて聞いて、非常に楽しみであった。ビジョンの策定に関わることはあるが、フリーハンドでビジョンを生み出す機会はなかなかないと思うので、今回それができたという価値は非常に大きいと思う。
- ・ この懇談会が始まる頃は、コロナ禍になる前であり、当時未来のことを考えて話したつもりが、コロナ禍により社会の変化が急速に進み、既に実現していることもある。
- ・ 報告書の内容を考えたとき、社会が変化により、まちづくりの手法は変化しても、まちづくりに対する軸が変わることはなく、いかにアジャイルにスピード感を持って取り組んでいくかが重要であると思う。
- ・ 地域づくりは強みを伸ばして、弱みを克服することが定石であるが、これからは「弱み」を活かしたまちづくりも良いのではないかなと思う。

(木原委員)

- ・ ビジョン志向で未来像について話ができただことは、非常に良い機会であった。このようなプロセスを市民の場に作っていく必要がある。
- ・ ビジョンを押し付けるのではなく、ディスカッションやプロセスの中で、市民の思いと融合させていくということが必要である。
- ・ ボトムアップとトップダウンのバランスをとり、ボトムアップの声を拾い上げる体制や仕組み・制度を作ることが必要である。また、他の委員会などと横のつながりや相乗効果で、広島ブランドを発信していければ良いと思う。
- ・ ウォークابلなどこれまで注目されていなかったことが、注目されるようになってきた。これまでのまちづくりとのズレを受け入れることが必要である。

(渡邊座長)

- ・ 未来の広島づくりの芽は既に出ており、官民連携やエリアマネジメントなど、行政主導のまちづくりから民間主導へ大きく変わりつつある時期であると思う。
- ・ まちづくりには3つ重要なことがあり、1つ目は民間主導のまちづくりのためのビジョンを共有すること。2つ目はまちの強み、まちの財産・宝を生かしたまちづくり。3つ目はモビリティマネジメントのような、賢い暮らし方、賢い活動や賢いエネルギーの使い方などをする、賢いまちづくりである。
- ・ 広島歴史は被爆後に目がいきがちであるが、被爆前の歴史にも目を向け、広島強みを象徴する資源・歴史を発掘し、情報発信するプラットフォームのようなものと良いと思う。